

平成 29 年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第 2 期）
入学者選抜試験 【陶芸研究分野】

平成 29 年 2 月 13 日

注意事項

- ・ 試験が終わるまで、携帯電話等の電源は切り、封筒に入れてください。
- ・ 写真撮影等、一切の記録を禁止します。
- ・ トイレに行く際は必ず受験票を携帯すること。
- ・ 与えられた問題用紙、草案用紙等は持ち帰らない。

平成 29 年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第 2 期）

入学者選抜試験 【陶芸研究分野】

平成 29 年 2 月 13 日

本日の試験は下記の時間割で行います。

■ 筆答試験① / 第 2 試験場（オープンアトリエ）

10:00 ～ 10:30

■ 実技試験① / 第 1 試験場（陶芸研究室）

10:40 ～ 11:40

◇ 昼食 / 屋外または第 2 試験場（オープンアトリエ）でとってください。

昼食後、12:20 第 2 試験場（オープンアトリエ）集合

■ 実技試験② / 第 1 試験場（陶芸研究室）

12:30 ～ 16:10

■ 面接 / 第 2 試験場（オープンアトリエ）

■ 筆答試験② / 第 3 試験場（絵付部屋）

※ 面接と筆答試験②は、実技試験②の時間内に
受験番号順に 各 10 分ずつ行います。

平成 29 年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第 2 期）

入学者選抜試験【陶芸研究分野】

平成 29 年 2 月 13 日

筆 答 試 験①

(10 : 00 ~ 10 : 30)

以下の文章の[]に入る語句を解答用紙に答えなさい。

釉下彩の一つで、酸化コバルトを主成分とする絵具を使って素地の上に図様を表し、透明釉を施して焼成する技法、およびその製品を[1]という。

萩焼に用いられる原土で、山口県防府市台道及び山口市鑄銭司から産する[2]土は比較的耐火度の高い白色粘土で砂礫が多い。

高火度焼成の釉下彩の一つで、酸化第二鉄または鬼板・黄土などの含鉄土石を顔料として釉下に黒褐色の図様を表したものを[3]という。錆（錆）絵ともいう。

器面に浮き彫り文様を施す彫刻技法の一つの[4]は文様の際が最も深くなるように、ノミの刃先を文様側に傾けて彫り込む技法である。中国宋代の耀州窯の青磁などにみられる。

木灰や土灰などの灰は、水に浸し攪拌した後、一定時間静置し、上澄み液（灰汁）をきる水簸を繰り返して、可溶性の[5]塩類を取り除いて使用することがある。灰汁抜きが不十分だと、釉切れの原因になったり、釉に艶がなく発色が悪くなったりする。

透明、無臭の粘性のある水溶液の[6]溶液は、水ガラスとも呼ばれ、粘土や坯土の解膠剤として水にごく少量加えて、鑄込み用泥漿に使用される。

釉面に現れるひび割れのことを[7]といい、発生する最も一般的な原因は素地より釉のほうが熱膨張率の大きい場合で、焼成後の冷却過程で釉面に引っ張り応力がかかり、弾性限界を超えると起きる。

愛知県瀬戸・猿投地区、岐阜県東濃地区、三重県島ヶ原地区などに産出する、耐火度が高く、可塑性、乾燥強度の大きい炭質風化堆積粘土を[8]粘土という。炭化した木片を含むことが多いことから名付けられたといわれている。

柿右衛門様式にみられる乳白色の素地のことを[9]という。江戸後期以降には柿右衛門様式の衰退とともにみられなくなるが、昭和 28 年 (1953) に 12 代と 13 代柿右衛門が中心となった柿右衛門製陶技術保存会が復元し、昭和 46 年 (1971) 国の重要無形文化財に指定された。

素地装飾技法の一つで、色の違う二つ以上の素地土を交互に重ね合わせたり揉みこんだりして文様をつくることを[10]という。現れる文様によって、鶉手・木理手・網代手・墨流し・市松手などと呼ばれる。

茨城県に生まれ、明治 22 年 (1889) に東京美術学校彫刻科に入学し、岡倉天心・高村光雲らの指導を受けた[11]は、葆光彩磁や彩磁などの技法を用い瑞鳥図や唐草文、あるいはアール・ヌーヴォー風に図案化した植物文の作品を制作した。昭和 28 年 (1953) に工芸家として初めて文化勲章を受賞した。

陶磁器に必要な珪酸質原料の代表的なもののひとつの[12]はシリカに富む塊状の原料で、主に石英からなる。珪酸分は 97%前後のものが多く、ペグマタイトの石英、脈状石英、熱変質による珪化物、またシリカ質の堆積岩やそれに由来する変成岩である。

中国揚子江下流域の[13]窯は、生活実用器が古くから焼かれた陶器生産地であり、なかでも可塑性の高い紫砂の土を用いた紫泥や朱泥や梨皮泥の茶器(急須、茶注)が多く焼かれており、日本でも珍重された。

現在のベトナム北部で焼かれたベトナム陶磁の日本での呼称を[14]焼という。16 世紀後半から 17 世紀前期を中心に渡来し、茶道具に多く用いられた。

東京都に生まれ、昭和 6 年 (1931) に東京美術学校工芸科を卒業した後に加藤土師萌、富本憲吉のもとで陶芸を学んだ[15]は上絵具の混色などの研究を行い、複雑な発色を可能とし、また絵画的描写を効果的なものにするための釉薬を開発した。さらに釉描加彩の技法や輪郭線を描かない没骨法の描写によって色絵磁器の表現の幅を広げ、花鳥を主題とした写実的な図柄による制作をし、昭和 61 年 (1986) に国の重要無形文化財「色絵磁器」保持者の認定を受けた。

窯の中の酸素が不足している状態で焼成することを[16]焼成と呼ぶ。この焼成においては、青磁釉では[17]分によって青味を帯びた呈色が、辰砂釉では[18]を呈色剤として紅色が得られる。

上絵付けに用いられる上絵具の呈色剤には銅によって緑色や萌黄色、アンチモンによって黄色、[19]によって紫色などの呈色が得られ、透明性をもったものを玉薬と呼ぶ。一方、日本の赤絵は[20]を仮焼したものとフリットを混ぜて用いる。

平成 29 年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第 2 期）

入学者選抜試験【陶芸研究分野】

平成 29 年 2 月 13 日

実技試験 ①

（10：40～11：40）

白土 10 kg を用い 轆轤びきにより
張りのある大壺を八角亀板の上に制作しなさい。

注意事項

- * 受験票は受験番号札の横に置きなさい。
- * 別に用意された粘土（1 kg）は八角亀板をとめるために使うこと。
- * 与えられた道具のみ使用する。
- * 高台の削りしろを残しておく。壺はカメ板から切り離す。
- * ひき終えた壺は轆轤の天板からはずし、通路側に置きなさい。

平成 29 年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第 2 期）

入学者選抜試験【陶芸研究分野】

平成 29 年 2 月 13 日

実技試験②

(12:30~16:10)

人体をモチーフとし、与えられた粘土を用い立体表現しなさい。
焼成を前提として造形すること。

注意事項

- * スケッチブック、コンテはエスキースにのみ自由に使用してよい。
- * 提出する解答は板上に置きなさい。
- * スケッチブックも提出しなさい。
- * 受験票は受験番号札の横に置きなさい。
- * 用意された道具のみを用いなさい。
- * 用意された道具は持ち帰らない。

面接、筆答試験②について

- * この試験中に面接と筆答試験②を順次行います。
- * 試験監督官の指示にしたがって試験場を移動してください。
- * おおよその面接時間は別紙 面接時間割を参照してください。

平成 29 年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第 2 期）

入学者選抜試験 【陶芸研究分野】

平成 29 年 2 月 13 日

筆 答 試 験 ②

用意された作品から、読み解けることを述べなさい。

注意事項

- * 試験時間は 10 分間です。解答用紙に答えなさい。
- * 作品は触っても構いません。取り扱いには気をつけてください。
- * 白い紙は草案用紙です。持ち帰ってはいけません。

別 紙

平成 29 年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第 2 期）
入学者選抜試験 【陶芸研究分野】

平成 29 年 2 月 13 日

面 接 時 間 割

面接の後、筆答試験②を順次行います。
筆答試験②は 10 分間です。

受験番号 1 番	1 2 : 4 0 ~ 1 2 : 5 0
受験番号 2 番	1 2 : 5 5 ~ 1 3 : 0 5
受験番号 3 番	1 3 : 1 0 ~ 1 3 : 2 0
受験番号 4 番	1 3 : 2 5 ~ 1 3 : 3 5
受験番号 5 番	1 3 : 4 0 ~ 1 3 : 5 0
受験番号 6 番	1 3 : 5 5 ~ 1 4 : 0 5
受験番号 7 番	1 4 : 1 0 ~ 1 4 : 2 0
受験番号 8 番	1 4 : 2 5 ~ 1 4 : 3 5
受験番号 9 番	1 4 : 4 0 ~ 1 4 : 5 0
受験番号 1 0 番	1 4 : 5 5 ~ 1 5 : 0 5
受験番号 1 1 番	1 5 : 1 0 ~ 1 5 : 2 0
受験番号 1 2 番	1 5 : 2 5 ~ 1 5 : 3 5
受験番号 1 3 番	1 5 : 4 0 ~ 1 5 : 5 0